



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.57

'11夏・秋号

いい香りが幸運へのスタート

「心地よい環境はその人の人生に
大きな影響をあたえる」
というのが風水の基本的な考え方だそうです。
そのためにはお部屋の香りはとても大切だそうです。
そんな考えから生まれたのが〈風水香〉。
選りすぐりの五種の香りで
心地よい環境づくりのお手伝いをいたします。
香りが心や身体に与える影響は
予想以上に大きいもの。
お部屋にいい香りを漂わせて
幸運を呼び込んでみてはいかがでしょうか。

ふうすいこう
風水香



●風水香（香立て付き）各840円（本体価格 800円）



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁目1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



四季彩々

そこにこうげん

曾爾高原 風に揺れるススキの海原

奈良県東端、三重県との県境に位置し、曾爾川流域に開ける曾爾村。その中であつて、なかなか俱留尊山と、亀山の裾野に広がるのが曾爾高原です。

曾爾高原には、東海自然道が通り、大きな樹木もないため、見晴らしがよく、人気のハイキングルートとなっています。

また、曾爾高原一帯はススキの群生地として有名で、秋になれば、まだらかな斜面は見渡す限りのススキに覆われ、その景観の美しさは圧倒的。ひとたび風が吹くと、陽の光を浴びたススキは銀の波となつて揺れ動き、時には豪快に、時には優しく、自然

ススキの穂は逆光を

浴びて黄金色に染まります。

この一瞬の素晴らしい光景に

出会うため、この時期多くの人が

たちが、曾爾高原にやってきました。

九月中旬から十月中旬にかけては、

「曾爾高原山灯り」として、灯籠が燈

され、またひとつ、日没後の幽玄な

世界に出会うことができます。



見頃 9月中旬～11月初旬
アクセス 近鉄名張駅下車
三重交通バスで45分
曾爾村観光協会
0745-94-2101
連絡先

香りの原料を訪ねて

大黃

米田 該典(大阪大学大学院医学系研究科)

香材はすべて海外から
渡来したもののなのです。

香の材料には植物由来の物を中心に動物由来の物も少なくないが、現在私たちが香の材料とするものは、すでに奈良時代に使用されていた物と大きな違いはなく種数の上では、およそ三十種くらいであろう。香道上でとなると、その数はぐっと少なくなる。でもそこには、五味、六国などと呼ぶ区分があつて、ある意味さらに複雑になっている。そんなことがあろうと、香の材料は古来全て海外から調達される物であると言うことでは、なんら変わることなく伝統として守り伝えて来た。だからこ

そ、今日にあつて奈良時代から伝えられてきた香木の研究調査が可能なのである。では、そんな香であれば、実態はすでに明らかなのですね、と問われたら、「はい」と言えないのも事実で、今まで科学的に調査が行われて来なかつたので情報の積み重ねがないのですよ...としばしば言い訳にする。それだけに、伝承の香材を調査していると、こんな物が...と言うことに出くわすことがある。

薬用の《大黃》と

香材の《大黃》。

その違いは...

たとえば、香材のリストを見ると、



▲大黃の基となる植物
根茎部を大黃として用いる

大黃の名がある。古来、大黃は「腹下し」を目的に、長年にわたつて世界各地で薬物として、今日まで大量に利用されてきた。
現在でも、薬としての価値は変わらないどころか、ストレスが増えて来る現代社会にあつては、薬としての消費量が増えている。



◀ 薬用とする大黃



▲ 香用とする大黃 薬用の大黃とは種類が異なり、香りも違う

そんな大黃ではあるが、香料として利用してはいても、薬効は期待できない大黃もある。

香薬という言葉があるのだが、大黃に関しては香にも薬にもなるというわけではない。というのは、同名ではあっても、香材の大黃と薬用の大黃とは全く別もので、その違いはというと、それは含まれている化学成分の違いで説明できるが、何ら加工しないままでも香りが違うことで容易に区別できる。薬用には化学的にセンノシドと呼ばれる成分が一定量（薬効を発現するに足る量）以上含まれている必要がある。それに対し香料の大黃にはそれは必要がなく、むしろ、燻熱するとそれらの成分は、香材にはふさわしくない異質の臭いを発する原因のひとつにもなる。香料用の大黃は燻べても不快な香り

その本体は先にも述べたように、様々な揮発性のアントラキノン系化合物が混合しての香りであって、燻べると、芳香のものと首をかしげたくなるものに分かれる。それが香用と薬用の区別に対応している。区別は単純で判りやすいことから古来人々は間違える事はなかったと信じてきた。でも時には芳香がするだけに、おやおやという間違いもある。

ある名家に、伝来の香木や香材の調査を行ったときのこと。幾重にも紙に包まれたやや大きな香の包みがあり、他の香と一緒に香箱の中にあつた。袋には沈香とだけ書かれていた。許可をいただき開いて見たが、表面は黒っぽくて、表面には艶さえ感じられる物で、わずかに芳香が感じられる。結果から言えばそれは沈香ではなく、大黃であつた。

を発しないことが必要で、薬用にならない低品質のものを意味するわけではない。その違いの由来は、とすると、由来する植物の種が違うことで説明できる。

大黃の植物仲間にはユーラシア大陸、特に東アジア中北部に数多くの種が分布している。それだけに古来大黃は香薬用を問わず、中国から輸入されてきた。でも産地を詳細に見ると、香用と薬用では異なっていて、香用種は薬用種よりは北方に産し、生産地が重なることはないが、薬用種に比べればその産地はきわめて限られているようである。

薬用種は栽培化され、安定供給も図られるべく大量に利用されるが、香用となれば数量的には少ない事から、野生株を採取することで十分であつた。産地を訪ね、歩いてきた限りで

先に調べられた方も気にはなつていたようである、実態が判らないままに、沈香の一つでは、とされたようだ。香箱の中の他の香の包みには雅名が書かれていたが、なぜかその袋だけは単に「沈香」とだけ書かれていた。香材としての大黃のことはご存じなかったのかもしれない。

沈香でないかと判つた以上、香箱から出して処分しようか、とのお尋ねがあつた。包み紙は他の香の包み紙とほぼ同紙質のもので、墨跡も同一人のものである。となると、香の歴史を調査する身には思わぬ掘出し物であつて、それだけなら持ち帰つてもいいですよ、とは仰つていただいた。でも今の所は、諸事を承知の上で他の香と一緒に保存されることをお願いしたが、果たしてよかつたのかどうか判らない。

Profile 米田 該典

よねだ かいすけ

Kaisuke Yoneda



所属：大阪大学大学院医学系研究科医学史史料室
薬学博士 神戸市生
専攻：文化財の材質調査と保存の科学
薬用資源学 薬史学

薬学時代には正倉院薬物を調査し、博物館へ移籍後は文化財全般に枠を広げ、いつの間にか海外の文化財にまで手を広げつつある。

は、枯渇するような事は考えられないが、採取できる人が激減していることが心配かもしれない。薬用に比べて使用量が遙かに少ない事はそれなりに悩みのたねでもある。

◆ ◆ ◆
香材の判別は時には難しいもの。また、そこが楽しいでもあるのです。

◆ ◆ ◆
ところで、どんな大黃も乾燥するだけで多かれ少なかれ芳香を発する。

この事があつてから、同様のことに三度も出くわした。一度目は、江戸時代の香箱（個人蔵）の調査時、二度目は昭和時代に収集の所蔵標本（法人蔵）の調査時、三度目は何処にとは言えないが、十世紀以前の香の伝承品の調査時であつた。それぞれの所には調査結果を説明したが、どうされたかは判らない。

ただ言えることは、香材の種数はほんの三十種ほどだが、案外素性の事は知られていないものだと感じている。でもこんなことがあるのが、実地調査の楽しみでもある。

▼ 沈香と間違えられた古代の大黃





セージ



古くから万能薬として珍重されてきました。セージは、シソ科サルビア属の植物です。サルビアの語源は、ラテン語で「健康に良いもの」という意味からきています。

セージはヨーロッパの南部が原産地といわれ、現在も、地中海沿岸の石灰質の日当たりの良い斜面に自生しています。草丈は三〇〜七〇センチに成長し、五〜七月頃に紫色の花が五〜一〇個かたまつて穂状に咲きます。やや肉厚な葉の表面には、うぶ毛のような細かい柔毛がびっしりはえてピロードのような感触があり、葉を少しこすると、独特の強い香りがします。

セージは和名で「薬用サルビア」の名前があるように、千年以上前から薬用として栽培されてきました。イギリスには「長生きするためには五月にセージを食べよ」ということわざがあるほど、強壮、殺菌、解熱、防腐、浄血等、いろいろな作用が認められています。セージは薬用のほかにスパイスとして、さまざまな料理に使用されています。中でもソーセージは、ソー（豚）にセージを加えて作ったことからソーセージの名前の由来にもなっています。ソーセージは豚肉を余すことなく使うために考えだされたものですが、脂肪分の多い豚の肉や内臓は、そのままでは生臭く、香りが強く防腐作用のあるセージが用いられたのです。現在では、肉類の臭みを消すことから、カレーをはじめとする肉料理によく使用されています。セージの精油は葉と花から、水蒸気蒸留の方法で製造されます。清々しくシャープな香りが特徴で、ヘアシャンプー、ボディソープ等の製品にも使用されています。

（今号の表紙／シユウメイギク）

●話題

ミステリーファイル

読売テレビの夕方の番組「かんさい情報ネットten!」では、作家・若一光司氏が関西の不思議なスポットや物を紹介する「ミステリーファイル」が人気。今回は、堺市の不思議を探して「梅栄堂」を訪問。伝統産業の中で、常識を打ち破る斬新な線香」として、「残香飛」や「二期香」などを、香りの体験を通じて、ユーモアいっぱいで紹介されました。

ニユーヨークでも人気

風水師ミレーさん監修の《風水香》が、あちこちで話題を呼んでいます。風水と香りを組み合わせたお線香《風水香》は、恋愛運アップの香り《ローズ》をはじめ、仕事運《ミント》、

健康運《檜》、

金運《ハチミツ&バナナ》、

基本運《ラベンダー》

の五種類。これまでにないユニーク

な、お線香として読売新聞や日経流通新聞などにも掲載されました。また、二〇一一年一月のN・Yのギフトショーでも、大きな反響がありました。

学生時代の貴重な体験

日刊工業新聞「わが友・わが母校」に梅栄堂の中田社長が登場。「中央大学では、ラグビー部に所属したものの、不幸にも腰と首を疲労骨折。残念ながら、マネージャーに転身。当初は

大変なショックだったものの、結果的には、選手生活では経験し得ない多くのことを体験した。多くの現役OBとも知り合えた。中でも香道の大家、

神保博行中央大学名誉教授には、今も香道の講演をお願いしたりと、お世話になってい

る。」と大学時代の貴重な体験を語らせていただきました。

【古香堂】各誌に紹介

梅栄堂のアンテナショップの古香堂が、「るるぶ」をはじめとした各情報誌に掲載。

約一五〇種もの、お線香・お香の品揃えのほかに、「試し焚き」ができる魅力的なお店として紹介されました。

●商品紹介

より優しく、より軽やかに。

天然香木の奥深い香りと、植物の持つさわやかな香りを調合して創られたお線香

《ラベンダーさわやか(煙ひかえめ)》と、

《ローズさわやか(煙ひかえめ)》が、「香り」をリニユアル。

煙ひかえめに加え、より優しくより軽やかな香りをお届けできることになりました。

爽やかなお部屋の香りづくりにもぜひお役立ていただけますようご案内申し上げます。



ラベンダーさわやか(煙ひかえめ)

ローズさわやか(煙ひかえめ)

●平型バラ詰 各1,050円(本体価格 1,000円)



個性的なお線香として、《風水香》が好評。(N.Y.ギフトショー)